

日本組織適合性学会誌 MHC の投稿規定

1. 投稿規定

1.1. 原稿様式

提出原稿がそのまま電算写植で印刷できるように、原稿は全て、コンピューターのフロッピーディスクとA4サイズでプリントアウトしたものの両者を提出する。ソフトはMSWordとする。字体、サイズ、行の字数、行間、などの体裁は自由とする。また、図表については、写植でそのまま掲載できるものを提出するが、挿入箇所を本文に指定する。図については天地を明示する。印刷の際に、縮小または拡大する場合があるので、考慮すること。また、図表の題や説明はワードで、本文とは別頁に添付する。なお、掲載された論文等の著作権は、日本組織適合性学会に属し、インターネットを通じて電子配信されることがあります。

1.2. 原著論文

会員からの投稿を原則とするが、編集委員会が依頼することもありうる。日本語、英語を問わない。最初の一頁はタイトルページとし、タイトル、著者名、所属、脚注として代表者とその連絡先(電話、FAX、E-mail、郵便番号、住所)を記す。タイトル、著者名、所属は次の様式にしたがう。

Nucleotide sequence for a Cw8 subtype, Cw8N, and its association with HLA-B alleles. Fumiaki Nakajima¹, Yoshihide Ishikawa², Junko Nakamura¹, Toshio Okano¹, Chieko Mori¹, Toshikazu Yokota¹, Ling Lin²⁾³⁾, Katsushi Tokunaga¹ and Takeo Juji¹

- 1) Kanagawa Red Cross Blood Center, Kanagawa, Japan
- 2) Department of Research, Japan Red Cross Central Blood Center, Tokyo, Japan
- 3) Department of Transfusion and Immunohematology, University of Tokyo, Tokyo, Japan

HLA-Cw8 のサブタイプ “Cw8N” の塩基配列および

HLA-B 座との関連分析

中島 文明¹、石川 善英²、中村 淳子¹、岡野 俊生¹、森 知恵子¹、横田 敏和¹、林 玲²⁾³⁾、徳永 勝士²、十字 猛夫²

- 1) 神奈川県赤十字センター、検査課、
- 2) 日本赤十字中央血液センター、研究一課、
- 3) 東京大学医学部附属病院、輸血部、

内容は二頁目よりはじめ、要約 (Summary)、はじめに (Introduction)、材料と方法 (Materials and Methods)、結果 (Results)、考察 (Discussion)、参考文献 (References) の順に記載する。また、要約の末尾に日本語で5語以内のキーワードを加える(英文の場合には英語の Key words を加える)。脚注は適宜、設けてもよい。日本語で投稿の場合には、末尾に英語のタイトル、著者名、所属(様式は上述に従う)、英語の要約と英語で5語以内の Key words をつける。枚数に特に指定はないが、速報的な短報(全体で、2,000~3,000字、出来上りA4版で2~4枚程度)を中心とする。もちろん、full article も歓迎する。また、新対立遺伝子、日本人に認められた希な対立遺伝子に関する報告も受け付ける。なお、参考文献 (References) の記載については、下記 1.5 を参照すること、オリジナル1部にコピー3部を添えて、編集長宛(下記3参照)に送付する。

1.3. 総説、シリーズその他

編集委員会からの依頼を原則とするが、会員からの投稿も大いに歓迎する。日本語を原則とする。タイトル、著者名、所属は上記 1.2. の通りにしたが、要約と要約の末尾に日本語で5語以内のキーワードを添える。その他の体裁は自由とするが、構成がいくつかの章、節などから成る場合には、次の番号に従い、適当な見出しを添える。

1. 2. 3. 4. ……

1.1. 1.2. 1.3. ……

1.1.1. 1.1.2. 1.1.3. ……

脚注は適宜，設けてもよい。なお，参考文献 (References) の記載については，下記 1.2. を参照すること。

1.4. 校正

校正は編集委員が行い，特別な場合を除き，執筆者は校正を行わない。

1.5. 参考文献

参考文献は，本文中に数字で，例えば (3)，の様に表示し，末尾にまとめて，次のようなスタイルで記載する。ただし，著者名，または編集者名は，筆頭 3 名まで記載し，以下は省略する。

1. Komatsu-Wakui M, Tokunaga K, Ishikawa Y, *et al.*: Wide distribution of the MICA-MICB null haplotype in East Asian. *Tissue Antigens* **57** (1): 1–8, 2001.
2. Tokunaga K, Imanishi T, Takahashi K, *et al.*: On the origin and dispersal of East Asian populations as viewed from HLA haplotypes. *Prehistoric Mongoloid Dispersals* (eds. Akazawa T, Szathmary

EJ), Oxford University Press, p. 187–197, 1996.

3. 徳永勝士，尾本恵市，藤井康彦ら：HLA に連鎖した遺伝標識に関するハプロタイプ調査，移植，**18**: 179–189, 1983.
4. 徳永勝士，大橋 順：疾患遺伝子の探索．わかる実験医学シリーズ「ゲノム医科学がわかる」(菅野純夫編)，羊土社，p. 48–55, 2001.

2. 別刷

原著論文については，別刷は有料とする。その費用は部数，頁数による。

3. 原稿送付先

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院医学系研究科
人類遺伝学分野
日本組織適合性学会誌 MHC
編集長 徳永 勝士

TEL: 03-5841-3692

FAX: 03-5802-2907

E-mail: tokunaga@m.u-tokyo.ac.jp

編集後記

昨年(2004年)の第13回組織適合性学会大会において大会長の発案により、抗体QCワークショップを行いました。HLA検査を日常的に行っている我々にしてみれば、抗原や遺伝子のタイピングと同様に抗体検査も重要な検査項目のひとつです。1990年代にタイピングは血清学的検査からDNA検査に遷移していきました。自家製試薬でHLAクラスII遺伝子の検出からはじまり、やがてクラスI遺伝子にも手を広げていきました。それはタイピング結果をより確実なものにしたいという一心からの行動であり、その間に市販試薬も追いつき今ではクォリティー・コントロールが確実に成された検査をあたりまえの様にやる事ができるようになったのです。

一方、抗体検査ではそれを行うための様々な制約に悩まされていました。当然のことながら抗体の検出には抗原が必要であり遺伝子を調べても抗体は捕まえません。抗体を検出するにしろ同定するにしろ生細胞の抗原パネルが必要不可欠で、PRA (Panel-Reactive Antibody) 検査と呼ぶようにもなりました。検査法も抗原抗体反応を検出できる血清学的検査やELISAあるいはフローサイトメトリーなどありますが、一般的にはLCT法に頼らざるをえません。しかし、抗原パネルが手に入らなければPRA検査すら行えないという事実は同様でした。

最近になり、HLA精製抗原をTerasakiプレートやポリスチレン・ビーズに結合する技術が進歩し、それらを使用した市販試薬が誰でも入手できるようになり、このことが、抗体QCワークショップを実現できる契機となった訳です。この精製抗原はさらに進歩し、Single antigen typeなるものが登場しています。我々がこれまで扱ってきた抗原パネルは複数のローカスに各ローカスふたつの抗原があるということに常に意識して解析してきた訳ですが、そのような危惧? は全く必要なくなったということです。

さて、その検討結果ですがLCT法が補体を介した細胞障害性抗体のみを捕らえているのに対し、精

製抗原を用いた方法はストレートに結合した抗体のほとんどを捕らえているという違いを改めて認識させられたということです。感度は確かに後者の方が優れているようですが、LCT法が捕らえていない抗体がはたして臨床的にどれほどの影響をもっているのか定かではありません。現在のところ方法や感度の比較あるいは解析方法に重点がおかれてワークショップをおこなっていますが、今後は臨床データとの比較を試みていかなければならないと感じています。

抗体QCワークショップは本年より学会のQCワークショップ部会が担当し継続的に進める環境が整いましたので、ぜひとも皆様も参加していただきたいと願っています。
中島 文明

「MHC」バックナンバー

一冊¥2,000にて購入できます。学会事務局までお問い合わせ下さい。なお在庫僅少の号もありますので、万一品切れの際にはご容赦ください。

入・退会、所属・住所・連絡メールアドレス変更

各種の申請は、学会事務局で受け付けます。

日本組織適合性学会事務局

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台2-3-10

東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子病態分野内

電話 03(5280)8054

FAX 03(5280)8055

電子メール jshijimu.tis@mri.tmd.ac.jp

日本組織適合性学会ホームページ

学会活動に関する情報やHLA遺伝子の塩基配列情報が利用できます。

<http://square.umin.ac.jp/JSHI/mhc.html>

<http://jshi.umin.ac.jp/mhc.html>

MHC

Major Histocompatibility Complex

Official Journal of Japanese Society for Histocompatibility and Immunogenetics

2005年5月31日発行 12巻1号, 2005

定価 2,000円

発行 日本組織適合性学会(会長 木村 彰方)

編集 日本組織適合性学会編集委員会(編集担当理事 徳永 勝士)

平成8年7月24日 学術刊行物認可

日本組織適合性学会事務局(事務担当理事 十字 猛夫)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-10 東京医科歯科大学難治疾患研究所分子病態分野内

印刷・研究社印刷株式会社

〒352-0011 埼玉県新座市野火止7-14-8